

私が彼らを変えたのではなく、 変えられたのは、私です。

メトロの働きをしていると、毎日のように、人生が驚くほど変えられていく人々に出会います。関わっている子どもたちのうちに神様がどのように働かれているかを具体的にお伝えすることが、メトロを語ることであり、新たにこの働きのご支援を考えられる方にとって一番のご参考になると思います。ここニューヨークで、そして世界中で、神様がなされていることをぜひ、知っていただきたいのです。

今日ご紹介するのは、メトロ・ニューヨークのスタッフ、アルフレッド・ララの経験です。アルフレッドは、ある青年グループと出会い、彼らの人生がメトロの働きを通じて変えられるのを目撃しました。そして、同時に自分自身の人生が変えられることも。この話を通して、希望を感じていただけたらと思います。

そしてこのお証しが、皆様のご支援の励みとなり、新たにこの働きに賛同される方々が起こされて、スポンサーとなっただけの契機になればと期待しています！



アルフレッドの証し

この街では、子どもにも若者にも大人にも、それぞれに背景があります。ここで成長すれば、たくさんのご経験します。私は今でもショックを受けたり、目が開かれたり、心を痛めたりしています。それは、自分自身の体験によってではなく、関わる子どもたちの話があまりにも凄いらからです。

たとえば、3年ほど前にメトロのサマーキャンプで、十代の少年向けのチームを担当した時、私のグループにいた青年たちです。やんちゃですが、一緒にいて楽しい連中でした。キャンプの後は、メトロユースという若者対象のグループに参加してもらいました。その後、他の少年たちも加えて、人生や個人的なことを語り合う場としての小さなグループを作りました。そこでは皆、様々な体験を話してくれました。学校でのことや家庭でのこと。話を聞けば聞くほど、何も言えなくなるのです。何か言おうとしても、涙が出るだけです。そして、それほどの苦難を通りながらも、なお彼らが笑顔でいられることは信じがたいことでした。その立ち直りの力と希望、神への信仰に、私は奮起させられました。

私自身が主から受けた愛を彼らに注ぎ、このグループの活動を続けました。3年間で、彼らは驚くべき成長を遂げました。メトロの教会学校で育った彼らは、それぞれ別々の地域で生活していますが、今でも家族同様の付き合いを続けています。そして今、彼らは土曜日のメトロの教会学校、大人の礼拝とメトロユースで助手をしていています。いつでも頼りになる存在です。

周りの方々が私に、「大きな働きをしましたね、あなたの尽力によって彼らは本当に変わりましたよ」と言ってくださいます。でも実際のところ、変えられたのは私なのです。

皆様のご支援が、私たちの働きを支えていることにどうか誇りを持ってください。心から感謝しています。

アメリカのキャンプ支援

詳細は、お申込用紙をご覧ください

1件 24,000円
メ切は5月30日(水)

どなたでもご支援いただけます

今月号の目次

P2~4...フィリピンツアー参加者のご感想

P4~5...メトロ・フィリピン視察のご報告

P6...日本事務所からのお願い／万代牧師からのごあいさつ／日本事務所の情報

フィリピン視察ツアーのご感想

4月6日～9日にかけてメトロ・フィリピンの現地視察ツアーを開催しました。ご参加くださった方より、さっそくご感想をお寄せいただきましたので、掲載させていただきます。(掲載は受領順)

今後もご寄稿いただいた順に掲載していく予定ですので、楽しみに。

矢内様からのご感想

メトロワールドチャイルド・フィリピンの活動視察ツアーに参加、メトロを通して支援している子どもに会うことができました。(子どもたちの写真は、子どもたちを守るために投稿できないのですが…)

政権交代で混乱の中、緊張の渡航でしたが、空港のセキュリティ管理も整い、4日間の短いツアーでしたが無事に帰国しました。

フィリピンでもメトロの徹底した活動は本当にすごい。子どもたちに渡すものは、食料などの物質的な支援だけでなく、福音という希望。スタッフの熱い思いがひしひしと伝わって来ました。ここで希望を掴まなくては、子どもたちが貧困社会の食べ物にされてしまう…。

早朝、出発前にスタッフと注意事項の確認



メトロのスタッフはスモーキーマウンテンの奥の奥、ゴミの中でゴミを漁りながら暮らす家族、家々を訪問しています。スモーキーマウンテン、ある程度の覚悟はしていたものの、現実を目の当たりにするとその凄まじさは筆舌には尽くしがたいものがあります。それでも人懐っこい子どもたちがとても可愛らしくて、車に乗って別れる時まで、来てくれた女の子には別れ際にもう一度ぎゅっ?とハグしておきたかったなあと後悔。子どもたちをずっと抱きかかえていた後の筋肉痛がよいおみやげです。



2 ゴミの中からリサイクル業者が買ってくれる物を探す子どもたち



スモーキーマウンテンから見る、貧困者用アパート。1室に10人以上で生活。足下はすべてゴミでできた広大な山。この奥に点在するたくさんの小屋に住む子どもたちも訪問している

藤井様からのご感想

今回は貴重な機会を与えていただき感謝です。わたしは途中参加で2日足らずの滞在でしたが、日常のすべてを忘れて濃い時間を過ごせました。

「いつかメトロ・フィリピンの活動を見に行きたい」とずっと願っていたのに、いざ出発となると、以前万代先生に見せていただいた現地の写真を思い出シドキドキでした。裸同然の子、顔も体も真っ黒に汚れた子、水浸しの不衛生な住環境…「あの光景の中で平静でいられるかしら」と。

でも杞憂でした。人懐こく無邪気にまわりついてくる子どもたちの笑顔は最強で、確かに臭いんですけど(笑)そんなの平気どころか、触れ合いたくて抱き締めたくて…多分わたしは、子ども以上にはしゃいでいました。

写真で見れば「スラム街の子どもたち」という集団ですが、実際にはそれぞれに個性があり、一人一人に日本のわたしたちの子どもと同じ重さの命と人生があります。

中でも印象に残ったのは9歳のアンドリュウ君。英語が話せるのは学校で使っているからだそうです。タガログ語を教えてくださいましたが、複数の言葉を系統立てて順番に説明してくれ、とてもわかりやすい。彼は他の友達と遊びに行った後も時々戻ってきては「〇〇はタガログ語で何と言うんだっけ?」と復習させてくれる教え上手な先生でした。

実に頭のいい子だと思います。でも、もしこの子が学校に行けなかったら優秀な素質も開花することはないでしょう。つらく、もったいないことです。すべての子どもたちが彼のように教育を受けられる状態になることを心から願いました。

その後は、ゴミを漁って生計を立てる人々が暮らす地域に連れて行っていただき、ゴミの山から必要なものを分別している人たちの姿を見たのですが…その手さばきの見事なことと言ったら!生きるために必死で作業するうちに身についた

次ページへ続く

前ページからの続き

スキルでしょうが、あの瞬時の判断と手際の良さは、別の場所なら違う仕事で生かせるかもしれませんし、技術を磨いてさらに高収入の仕事に就く可能性もあるかもしれません。

いくら頭が良くても、手仕事が速くても、他に潜在的な才能があったとしても、環境次第では無意味になりかねないのだ…としみじみ感じました。

しかし住環境は選べなくても、メトロの活動によって福音に触れ、教育を受けられれば、より良い人生を選択する機会を得ることは可能です。いずれそれが街全体の正常化にもつながるかもしれません。



ニューヨークでもフィリピンでもスタッフの献身ぶりは感動的で、彼らの眩しさに自分が恥ずかしくなる瞬間もあります。でも、誰もがスタッフになろうとすればミッションは実現しないわけで、わたしたち日本にいる者は心を込めて精一杯献げ、祈り、子どもと交流し、奉仕する…それが重要な働きだと思います。自分の贅沢をちょっと我慢して子どもの人生を変えるチャンスにつなげる。未来への希望につなげる。なんて素敵で幸せな役割でしょう。

マニラから帰って洗濯物を出すとあの不衛生な匂いが蘇り、様々なシーンを楽しさや切なさと共に思い返しました。いつか、これが「マニラの匂い」でなくなる日が来るでしょうか。希望を持って、今、自分にできることを続けて行こうと思います。

鈴木様からのご感想



主イエス様の素晴らしい御名をあがめます。今回、フィリピンツアーに行く決心をし、教会の牧師、教会員の皆さんの執り成しの祈りに送り出されて成田空港から、出発しました。

見たこともない景色、聞いたこともない言語、嗅いだことのない空気がフィリピンツアー中にありました。

でも、メトロフィリピンセンター長やスタッフの皆様の宣教に対する熱い思い、子ども達のイエス様を慕い求める顔は、万国共通でした。

今回のツアーでは、私がスポンサーをしている女の子とその家族にも会うことができるように、セティングをして下さいました。女の子は、終始恥ずかしくてお母さんばかりを見つめていました。お母さんから、女の子がイエス様を信じて、日曜学校にも毎週休まず行っていること、小学校では一生懸命勉強していること、スポンサーが来ることを待ちわびてくれていたことを聞きました。

また、お母さんは私にこんな話をして下さいました。以前、彼らの生活は、スモーキーマウンテンと呼ばれるゴミ山にありました。そんな中で、日曜学校に通う女の子を始め、子ども達の信仰の姿勢を見て、救われたお母さんも教会学校のお手伝いをしていました。

ある日、スモーキーマウンテンが一掃されることになり、家を失うことになるを知って、子ども達の生活を覆う現実を目の前にお母さんが、「子ども達の生活を守って下さい」とイエス様にお祈りされたそうです。その同時期に日本人が、女の子のスポンサーになることを知らされたそうです。「あなたのおかげです」と涙を流して、感謝されました。

私は何も特別なことをしたつもりではありません。クリスチャンである私の母を思い出し、母が、子を思い執り成す祈りの姿は、どこの国であっても同じだと伝えました。コーディネートして下さった牧師夫人、メトロスタッフ、お母さんとファストフード店にいるのに、周りの目も気にせず号泣し合いました。(その後、住まいも確保されたそうです。)

私がスポンサーになったことで、一人の子どもの人生を支え、それだけでなく、その家族が、親族がイエス様に繋がり、実際の経済も守ることができる尊い働きに加えられていることを感動をもって、体感しました。メトロの働きが、ただ人道支援だけでなく、福音を子ども達にはっきりと伝える役割を果たしていることに感激しました。

日本に帰り、すぐさまメトロのスポンサーになっている教会員に報告しました。私達の働きが、将来尊い希望をキリストの愛をもって具体的に与える支援であることを伝えると「状況や必要が良く分かった。支援を続ける決心をした」と口々に嬉しいレスポンスがありました。現地ツアーを企画、計画、コーディネートして下さった万代先生、三木姉妹はじめ、現地スタッフの皆様のお心遣いに感謝せずにはられません。本当に大切なことは何かを感じた旅になり、イエス様に感謝と栄光をお返し致します。

辻様からのご感想

今回のツアー参加の目的は、ふたつ、1つは、三年前から支援している里子に会うことでした。フィリピンへのプレゼントは、現地調達が決まりなので、里子に関する詳細がわかりません。写真で顔はわかるものの、声は？身長は？服のサイズは？等々思いは募るばかりでした。この機会に、直接会って、ハグしたいと思ったのです。

面会当日、すぐにわかりました。想像していたよりも小柄で、繋いだ手も小さくて、幼さが残っていました。その日の午後に、小学校の卒業式があるとわかり、直接、お祝いを伝える事が出来て、嬉しかったです。



子どもたちのあこがれのファストフードで家族と一緒に食事

前ページからの続き

車の中で、一緒に紙風船を折りました。(新聞紙でしたが…) 昼食後に、折り鶴を渡したら、目を輝かせて喜んでくれ、とても心に残っています。将来の夢は、タガログ語の先生になること。しっかり勉強して、イエス様と共に夢をかなえてほしいと思います。別れ際に、写真をもらいました。少し大人びて綺麗に写っている卒業写真です。これは、私の宝物になりました。面会出来て、彼女の存在がさらに愛おしく身近になりました。

もう1つは、地域教会と協力してのメトロの活動を知ることです。治安が悪く、他地域のフィリピン人も近づかないスラム街で、メトロのTシャツを着ていれば大丈夫なのだそうです。驚きました。メトロスタッフの情熱あふれる働きと、地域教会、その地域に住み、住民から親しまれている世話役の方が



後ろに見えるのが、ゴミでできた山。ゴミを求めてその近くや山の中の小屋(この小屋でも家賃が必要)に住み、僅かな現金収入を得るために、1日中ゴミをあさる

加わることで、穏やかに、スムーズに働き、信頼を築く助けになっていると知りました。

スラム街・スモーキーマウンテン、TVで見知ってはいましたが、実際、その地の空気、臭い等を体験してみると、全く違うものだと感じました。

本当に、盛り沢山の4日間で、書き尽くす事ができません。滞在中に見た、この国の現実、格差、それを生む民族的思考。さあ、これを知ってどうするか？ まずは、今回の体験を、出来るだけ多くの人に話そう。支援が必要な2,000名の子ども達の必要が満たされるように、福音によって魂が守られますように。彼らが、将来、それぞれの家族、地域、国の祝福の基となることを、日本から祈り続けていきます。

ご感想を次号にも掲載する予定です

メトロ・フィリピン視察ツアーのご報告



今回は、お昼過ぎに成田空港を出発し、マニラまで直行便で4時間あまり。しかし、1時間の時差の関係で到着は現地時間の午後5時30分過ぎ。外はまだ十分明るく、メトロ・フィリピンのスタッフ、ハンナ姉、ネン牧師が迎えに来てくださいました。

さっそく、ジプニーと呼ばれる、屋根付きの小型トラックのような独特の楽しい乗り物の荷台(長椅子がある)に、荷物と共に乗り込んで移動。ファストフード店とコンビニで簡単な夕食や飲み物などを購入して、メトロ・ワールド・チャイルド・フィリピンへ到着しました。

施設内で夕食をとり、ハンナ姉を中心に、滞在中の日程や、フィリピンならではの習慣などを中心にオリエンテーションを受けました。

参加者の皆さんからも質問がたくさん出て、深い内容のミーティングとなりました。現場のニーズ、子どもたちの現況に合わせて伝道することが、いかに必要かを再確認。その後、滞在先のホテルにチェックインし、最後は皆さんで祈り合う時間を持って、初日を締めくることができました。

日本語が通じた理由

今回フィリピンツアーを開催できたのは、ハンナ姉の存在が大きく関係しています。彼女は、日本の宣教師のご家庭で生まれ育ったアメリカ人。代々牧師や宣教師のご家庭で、しっかりとした信仰を持っていますし、日本語は、きれいなはっきりとした標準語を流ちょうに話します。彼



女のおかげで、参加者も自由に質問をすることができましたし、オリエンテーションも日本語でされました。

ビル先生の開催されるフィリピンツアーは、ビル先生と直接お話もでき、熱いメッセージを聞くことができますので大変魅力的です。しかし、シンガポールの方が中心ですので、すべて英語でどンドン話が進んでしまいます。そのため、この危険な地域で、英語と現地の状況に不慣れた日本人の参加は難しいのが現実です。

次回の開催時には、ぜひ無理をしてもご参加ください。万代牧師とハンナ姉のサポートにより、言葉の不自由をあまり感じることなく、貴重な体験をしていただけます。



メトロの事務所兼、研修施設



マニラの交通事情と地域の状況

マニラでは、ほとんどの人が車やバイク、バス、タクシー、ジブニーと呼ばれる乗り合いの車、バイクや自転車のサイドカー乗るトライシクルやペティキャブなどで移動します。そのため道路は恒常的にひどい交通渋滞と排気ガス。さらに、現地の人の運動神経にもびっくり。信号機は滅多に無く、道路も車線はお構いなし。日本なら3車線くらいの道に、5台くらいの車がひしめき、間をバイクがすり抜け、その合間を見て人が横断します。

このような状況の中では、移動するだけで大変な時間がかかることと、マニラのホテルも結構高いので、メトロの施設のあるパラニャ

ケ地区のホテルを選びました。

メトロの研修所は、スタッフや研修生たちの安全を考慮し、高級住宅街にある、以前は会社の研修所として使われていた建物。その地域の入り口では、ガードマンが出入りを厳しくチェックします。

いよいよ活動開始

2日目の朝7時30分にホテルに迎えに来ていただき、8時にはメトロの施設からグループに分かれて出発。

フィリピンの子どもの里親になってくださっている方には、それぞれの子どもたちに実際に会いに行っていました。

スラム街にある子どもたちの家を訪問したり、近くのファストフード店で待ち合わせて食事を一緒にしたり、とても感慨深い時を過ごしていただきました。

その後、有名な墓地での教会学校に参加。スラム街を歩き回り、子どもたちに声をかけ、チラシを配り、みんなを抱きしめるメトロのスタッフついて回り、実際の活動を体験しました。

道端日曜学校ではもちろん、躍動感溢れる集会を開催！いつものことですが、メトロの若いスタッフや研修生のみんなの頑張りには、ただ感動！



出発前に注意事項や予定の再確認



崩れそうなバラックの建ち並ぶスラム街



全力投球の道端教会学校に子どもたちは大盛り上がり



開催前に案内チラシを配付
チラシを持ってくると最初に首にかける紐付きのタグと交換
教会学校が終わった後に、タグと引き替えに食べ物がもらえる仕組み
ここでは食パンがもらえます

3日目は、思わぬ事態に遭遇。続きは次号でお伝えします。

日本事務所からのお知らせとお願い

FAX 送信の重要なお願い。 裏表にご注意ください！

せっかく FAX でお申し込みいただいたにもかかわらず、送信の際、裏と表を間違えられて、白紙で届くものがあります。


FAX 番号やお名前が表示されている場合は送信者を調べられますが、何も設定されていない場合やコンビニなどから送られた時は、どうしようもありません。

心当たりの方にお電話差し上げても見つからないまま、手配できていないものがあります。

裏表のどちらを下にするかは、機種によって違いますので、再度ご確認の上、お送りくださいますようお願いいたします。

メトロと万代牧師のフェイスブックをご活用ください！

万代牧師のフェイスブックでは、フィリピンツアーをはじめ、各集会の予定などを随時発信しています。リアルタイムでの情報をご希望の方は、ぜひご活用ください。

 「万代栄嗣」で検索！

または右の QR コードから



メトロのフェイスブックは

<https://www.facebook.com/metrochildjapan/>

ビル師、万代師の、「偽物」のフェイスブックや LINE にご注意ください！

個人的な送金依頼は絶対にしませんし、口座は、レポートでお知らせするもののみです。



フィリピンツアーのご感想をお読みください！

今回のフィリピンツアーは、最終的には、私を含めて12名での開催となりました。

フィリピンへのツアー開催は初めてでしたので、皆様がどこまで適応していただけるか、また、1年で最も暑い時期だということでしたので、熱中症などのことも気になり、少々心配しました。

しかし、現地へ到着して直ぐに現地スタッフから、「先週はもっと暑くて心配しましたが、今週は先週ほどではなさそうです」と報告を受け安心しましたし、ツアー中は国内移動も含め、好天候に恵まれました。

また、日本とは全く感覚の違うホテルや食事、その他のことも、皆様が良い経験として積極的に受け止めてくださり楽しいツアーとなったことを感謝しました。

ハードな日程でしたが、体調を崩す方もなく、現地の状況を視察し、スタッフと共に活動し、子どもたちの訪問など濃厚な体験をしていただくことができました。

途方に暮れるような状況の中で、信仰を持って主の救いに希望を置いて生き生きと活動する現地スタッフと、それを素直に受け止める子どもたち。複雑な家庭環境の中でも信仰によって歩み、スポンサーの方々への祈りによる支えに感謝する家族や噂通りの家族など、現地に赴いたからこそ多くの感動と体験ができました。

今回の開催時には、少々無理をしてでも、ぜひご参加いただければと願います。

皆様の上に、主の豊かな祝福と恵みを祈りつつ。

日本事務所代表 万代栄嗣

メトロ・ワールド・チャイルド日本事務所

所在地 〒104-0061

東京都中央区銀座 4-5-1

教文館 6 階 TFC 内

電話 03-3561-0174

FAX 089-925-1501

メール metrojapan@mission.or.jp

すべてのお振り込みは、同封の郵便振替用紙をご利用いただくか、下記宛にお願いいたします。

ゆうちょ銀行：一六九店 当座預金 0041610

郵便局：記号番号 01650-3-41610

口座名義はどちらも同じ

メトロ・ワールド・チャイルド・ジャパン